宮井美津子会員
南日本新聞（2020年5月29日）

宮井美津子さん（72）＝十島村

住民から介護認定に関する相談を受ける宮井美津子さん（右）＝十島村平島

表情を見せる。

新型コロナウイルスの感染拡大により外出自粛ムードが続く中で、新生児を育てる母親にとっても頼もしい存在だ。25日に訪問した同市小川町の酒瀬川志穂乃さん(32)宅では、3月に生まれたばかりの長男律ちゃんの身体計測があった。簗詰さんが「(律ちゃんは)体重も5㌔以上あり、順調に育っていますね」と声を掛けると、酒瀬川さんは「人に会えない日々が続く中、そばで子どもの成長を一緒に喜んでくれて本当にうれしいし、頼りになる」。

訪問指導員の定年は76歳。簗詰さんは「あと2年、悔いがないようにやり切る。また、新たな現場でも貢献したい」と意気込みを語った。

□■□

常勤の医師がいない十島村には、県外から赴任してきたプラチナナースがいる。2月から地域おこし協力隊員として平島（住民89人）で高齢者支援に取り組む、宮井美津子さん(72)＝神奈川県出身＝だ。同島の介護予防拠点施設に勤務し、見守り活動や筋力低下を防ぐ体操などのサロン活動を行っている。「住み慣れた島でいつまでも暮らせるよう、生活のお手伝いをしたい」と話す。

58歳で神奈川県の病院を早期退職した。60歳から国際協力機構（ＪＩＣＡ）のシニア海外ボランティアとしてバヌアツ、ネパール、ミクロネシア連邦の3カ国に赴任し、看護教育に取り組んだ。「医療資源に乏しい国では、自身で健康を守ることが大切だと改めて学んだ。平島でもそれは同じ。日本一健康を誇れる島になってほしい」と声を弾ませた。

夫の貢さん(74)と2人暮らし。海外赴任時から現在まで、文句一つ言わずついてきてくれた夫へは「いつも見守ってくれてありがとう」と日々感謝している。

県によると、県内で働く看護職員は約3万3千人。うち60歳以上は3586人と10・9％に上る。医療介護の現場で輝きを放つシニアは今後も増えていく。県看護協会の田畑千穂子会長は「情熱を持ち、これからも多くの人を笑顔にしてほしい」とエールを送った。

南日本新聞　2020年(令和2年)5月29日　金曜日　くらし　12

くらし

訪問看護の利用者宅で談笑する伊尻環さん＝南さつま市笠沙

かごしま発

伊尻環さん（80）＝南さつま市

輝き放つ「プラチナナース」

熟練技術と経験生かす

定年退職後も働く人が増える中、看護師の世界では10人に1人が60歳以上と言われる。年齢を重ねても、熟練した技術と経験を生かし活躍する看護師は「プラチナナース」と呼ばれ、訪問看護や新生児訪問など幅広い分野で活躍している。鹿児島県内ではつらつと現場を駆け回るプラチナナースに話を聞いた。（中元聡史）

「少し部屋が暑いから、クーラーをつけないとね」。南さつま市大浦町の伊尻環さん(80)。薩南病院を定年退職後、2006年に鹿児島市に訪問看護ステーションを設立した。精神科での勤務経験を生かし、精神科の患者を中心に50人以上を受け入れている。血圧や体温などを計りながら「患者さんの目線や会話内容など」から、症状が安定しているか気を配っている」と話す。役を続ける。あと10年はやれるかな」と頼もしい。

□■□

鹿児島市の助産師、簗詰美知子さん(74)は市の委託を受けて、訪問指導員として15年にわたり新生児訪問を続けている。これまでに担当した赤ちゃんは3千人近くに上る。簗詰さんは「今日もかわいい赤ちゃんに会える」と思うだけでやる気が出る」と穏やかな表情を見せる。

新型コロナウイルスの感染拡大により外出自粛ムードが続く中で、新生児を育てる母親にとっても頼もしい存在だ。25日に訪問した同市小川町の酒瀬川志穂乃さん(32)宅では、3月に生まれたばかりの長男律ちゃんの身体計測があった。簗詰さんが「(律ちゃんは)体重も5㌔以上あり、順調に育っていますね」と声を掛けると、酒瀬川さんは「人に会えない日々が続く中、そばで子どもの成長を一緒に喜んでくれて本当にうれしいし、頼りになる」。

訪問指導員の定年は76歳。簗詰さんは「あと2年、悔いがないようにやり切る。また、新たな現場でも貢献したい」と意気込みを語った。

□■□

常勤の医師がいない十島村には、県外から赴任してきたプラチナナースがいる。2月から地域おこし協力隊員として平島（住民89人）で高齢者支援に取り組む、宮井美津子さん(72)＝神奈川県出身＝だ。同島の介護予防拠点施設に勤務し、見守り活動や筋力低下を防ぐ体操などのサロン活動を行っている。「住み慣れた島でいつまでも暮らせるよう、生活のお手伝いをしたい」と話す。

58歳で神奈川県の病院を早期退職した。60歳から国際協力機構（ＪＩＣＡ）のシニア海外ボランティアとしてバヌアツ、ネパール、ミクロネシア連邦の3カ国に赴任し、看護教育に取り組んだ。「医療資源に乏しい国では、自身で健康を守ることが大切だと改めて学んだ。平島でもそれは同じ。日本一健康を誇れる島になってほしい」と声を弾ませた。

夫の貢さん(74)と2人暮らし。海外赴任時から現在まで、文句一つ言わずついてきてくれた夫へは「いつも見守ってくれてありがとう」と日々感謝している。

県によると、県内で働く看護職員は約3万3千人。うち60歳以上は3586人と10・9％に上る。医療介護の現場で輝きを放つシニアは今後も増えていく。県看護協会の田畑千穂子会長は「情熱を持ち、これからも多くの人を笑顔にしてほしい」とエールを送った。

住民から介護認定に関する相談を受ける宮井美津子さん（右）＝十島村平島

新生児訪問で乳児の健康を確認する簗詰美知子さん＝鹿児島市小川町